

あおもりけん いわてけん さかい たいりょう す
青森県と岩手県の境に大量のごみが捨てられたことについて

あおもり いわてけんきょうさんぎょうはいきぶつふほうとうきじけん
～青森・岩手県境産業廃棄物不法投棄事件～



ひょうししゃしん す ほだ ようす へいせい ねん がつ
【表紙写真】 捨てられたごみを掘り出している様子（平成18（2006）年11月）

れいわ ねん がつ
令和7（2025）年2月

いわてけんかんきょうせいかつぶ
岩手県環境生活部

しげんじゅんかんすいしんか
資源循環推進課

1 はじめに

自分の家からでる「ごみ」の出し方にも決まりがあるように、工場などからでるごみの出し方にも、日本中の人たちで決めた約束があります。みなさんが守らなければならない約束を「法律」といいます。

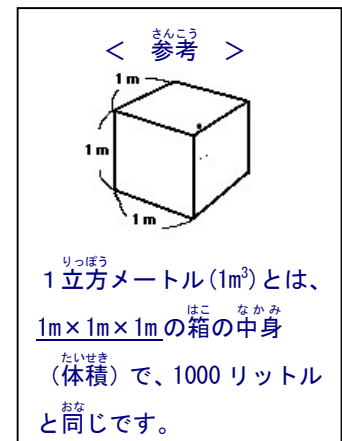
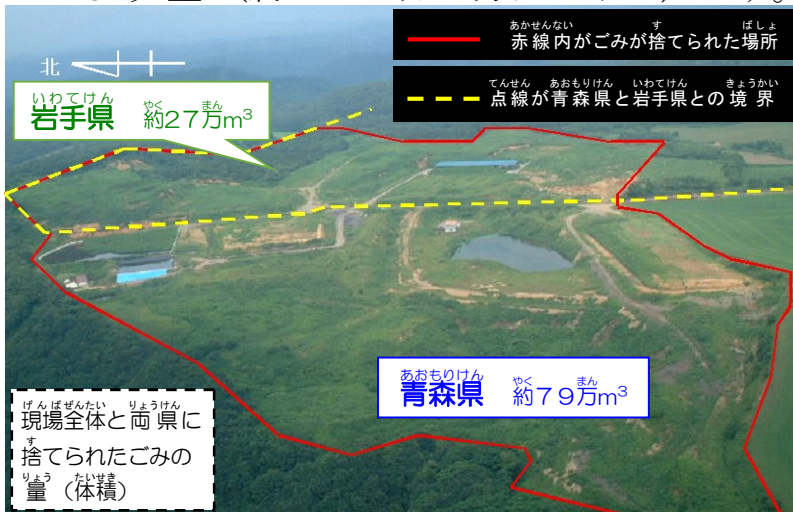
その「法律」を守らないで、青森県と岩手県のあいだにある広い野原に、自分勝手にごみを捨てた会社がありました。ごみを捨てた会社は、ごみを片付けるように県から注意を受けていましたが、ごみの量が多いため、自分の会社だけですべてのごみを片付けることができませんでした。

このため、県では、地域の人々の健康を守るため、ごみを捨てた会社のかわりに、すべてのごみを片付けることにしました。その費用にはすべてみなさんから集めたお金（税金）が使われています。

この冊子は、平成11（1999）年から令和5（2023）年まで、24年間かかって、健康に悪いものを含んだ、ものすごく多くのごみを片付けた記録です。

2 ごみの量や種類について

ごみが捨てられた場所は、岩手県二戸市と青森県田子町の境にあります。広さは野球グラウンド27面分（約27万平方メートル）、ごみの量は東京ドーム（約120万立方メートル）がほとんど埋まってしまう量（約106万立方メートル）です。



左の写真は、県がごみを片付ける前の様子です。
(平成14(2002)年ころ)

ごみが捨てられた場所では、「ごみのデパート」と言われるぐらい、いろいろな種類のごみが見つかっています。

ごみを燃やしたあとにできる灰（燃えがら）、工場などで汚い水をきれいにしたあとにできる泥（汚泥）、また、それらに木の皮などを混ぜた肥料（野菜などの農作物の栄養分となるもの）、中身が入ったままのドラム缶や食品の容器などがありました。

【捨てられたごみの例】



燃えがら



汚泥



ドラム缶



包装されたままの食品

ごみを捨てた会社は、全国から集めてきた「ごみ（燃えがらなど）」と「木の皮」を混ぜて「肥料」を作ろうと考えました。

しかし、ごみを捨てた会社は集めてきたごみを肥料にはせずに、ビニールや工場でいらなくなった油など植物の栄養にならないものまで混ぜて、土の中に埋めていたのです。

3 ごみがまわりに与える影響について

県では、ごみが捨てられた場所がどれくらい汚れているかなどについて、ごみを捨てた会社に調べさせました。その結果、捨てられたごみの一部に、体に悪い影響があるものが含まれていることがわかりました。

このため、ごみが捨てられた場所のまわりの川や地下水などに汚れた水が流れ出していないかを確かめることが必要になりました。



県では、毎月、ごみが捨てられた場所のまわりの川などから水を汲んで調べています。その結果、ごみが捨てられた場所の外には、汚れた水が流れ出していないことがわかっています。

【ごみが捨てられた場所の調査の例】



ボーリング調査：機械を使って地面に穴を掘り、地下の状況を調べています。



水質調査：川や沢などの水を取って、水の状態を調べています。

4 ごみの処理のしかたについて

いわてけん あおもりけん にのへし たっこまち す ひと だいひょう
岩手県と青森県は、二戸市や田子町に住んでいる人たちの代表や、
だいがく せんせい せんもんか しょり はな
大学の先生などの専門家と、ごみの処理のしかたをどうするかを話し
あ かい はな あ けっか す
合う会をつくりました。話し合いの結果、捨てられたごみや、ごみで
よごされた土は、すべて取り除いてきれいにすることに決めました。
ごみが捨てられた場所では、これまで次の作業を行ってきました。

① ごみが捨てられた場所全体を水を通さない丈夫な布でおおいました。

このことを「キャッピング」といいます。じめん みず とお
地面を「水を通さない
じょうぶ めの
丈夫な布」でおおうことによって、つぎ よ てん
次のような良い点があります。

- あまみず
・雨水がごみとふれないため、よご みず ふ
汚れた水が増えないこと。
- じめん あまみず
・地面に雨水などがしみこまないため、ちか よご みず そと なが
地下にある汚れた水が外に流
れていかなくなること。

【地面を布でおおう作業の様子】



おおきな めの
おおきな布どうしをつなぎあわせて
いるところです。

【作業が終わった場所】



めのかぜ
布が風で飛ばされたりはがれたり
しないように、たくさんのおもし
(土のう)でおさえています。

② 土の中にあるごみを掘り出して、建物の中で分けました。

ごみのほとんどは、つち
ごみのほとんどは、土の中でいろいろなものが混ざりあっています。
このため、つち なか
このため、土の中からごみを掘り出しても、そのままでは片付けが

できなかつたり、法律で決められたとおりにきちんとごみを分ける必要があつたりします。

そこで、県では、ごみが捨てられている場所のそばに、土の中から掘り出されたごみを分ける作業をするための建物（選別プラント）をつくりました。

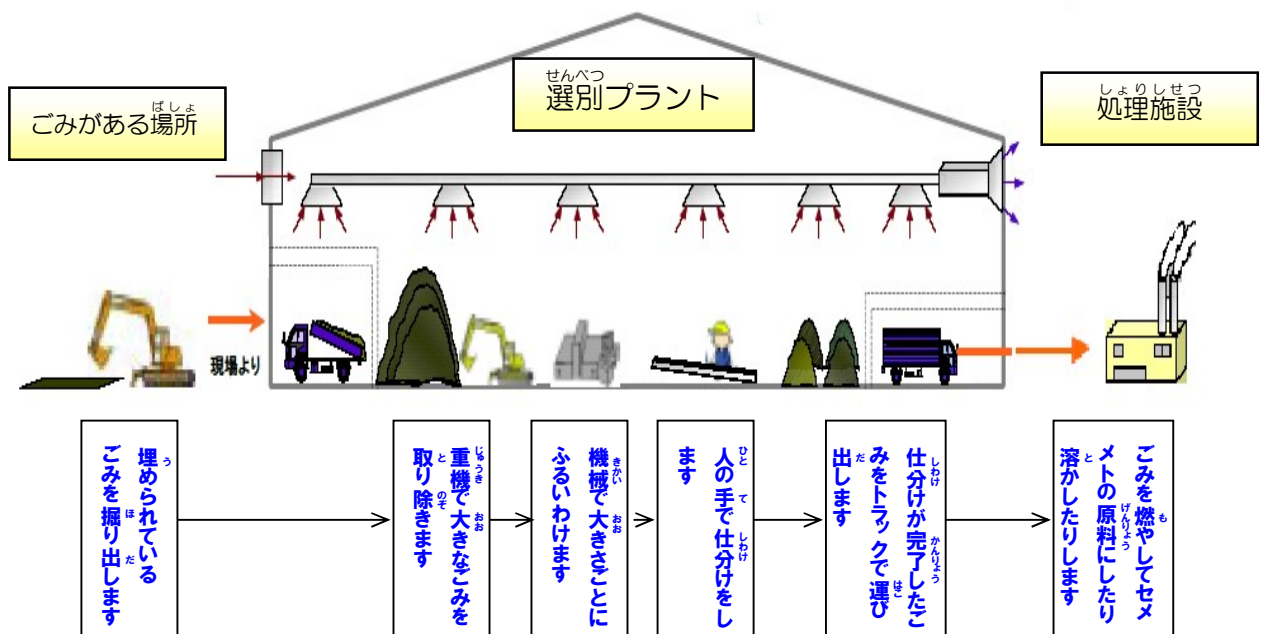
建物の中では、ごみを乾かしたあとに、機械や人の手で大きさや種類ごとに分けたり、機械を使って決まった大きさに砕いたりしています。

【建物のなかのようす】



ごみを機械や人の手で分けるため、コンベアにのせます。

この機械で、ごみを大きさごとにふるい分けします。



③ ごみを運び出して、体への悪い影響をなくしました。

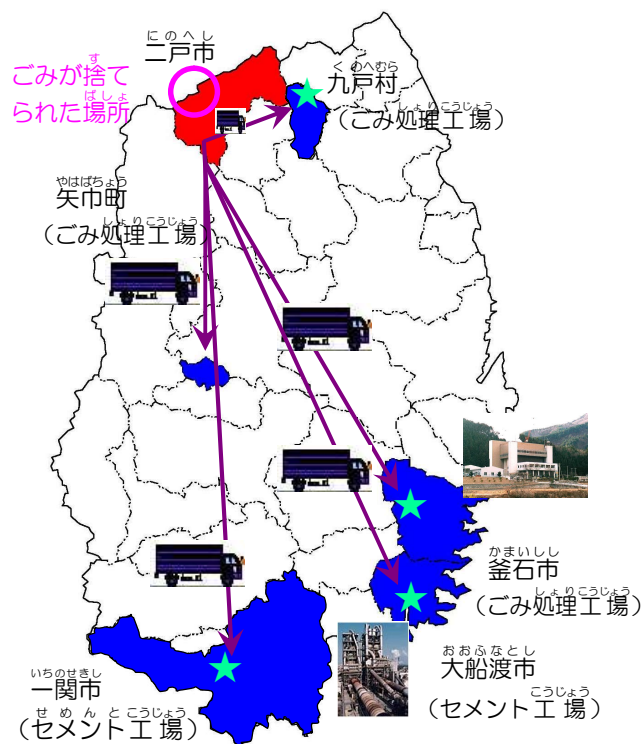
砕いたり分けたりしたごみは、高い温度で燃やして、体に悪い影響があるものをなくします。さらに、燃やしてできた灰などは、セメントの原料などに再利用することができます。

このようなごみを燃やす作業には、大きな機械や設備が必要です。岩手県内では、一関市と大船渡市にあるセメント工場や、九戸村、矢巾町、釜石市にある、ごみを専門に高温で燃やす工場に、それらの大きな設備があるので、トラックで工場までごみを運んでいって、作業をお願いしました。



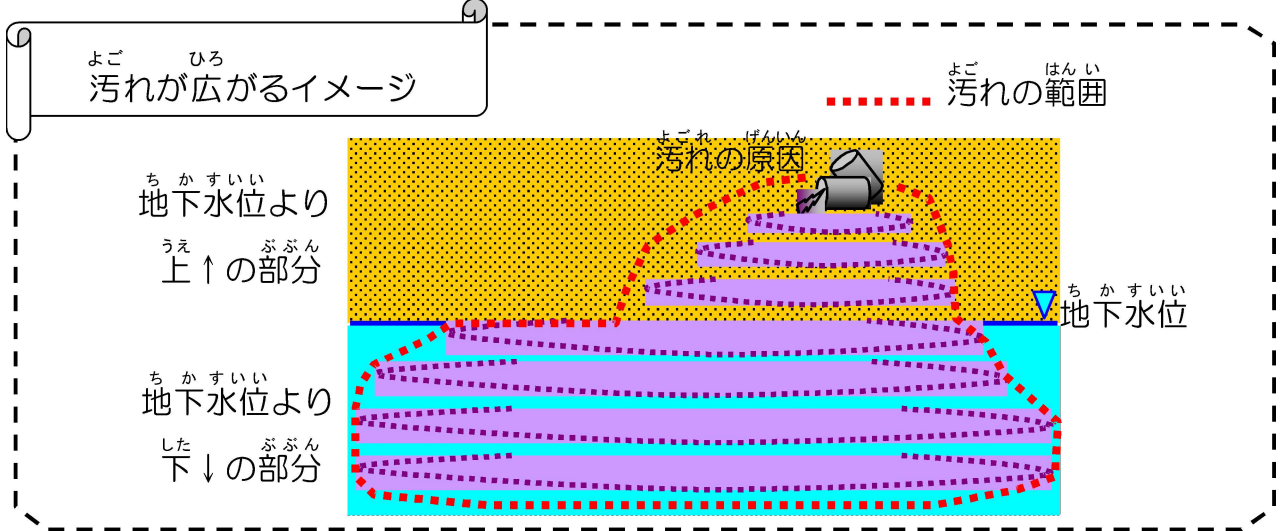
ごみを積んだトラックは、タイヤを洗ったあとに、工場へ向けて出発します。

トラックのごみを積むところには、丈夫なフタが付いていて、ごみが飛び散らないように、においが出ないようにしています。



④ 土や水の中の汚れをきれいになりました。

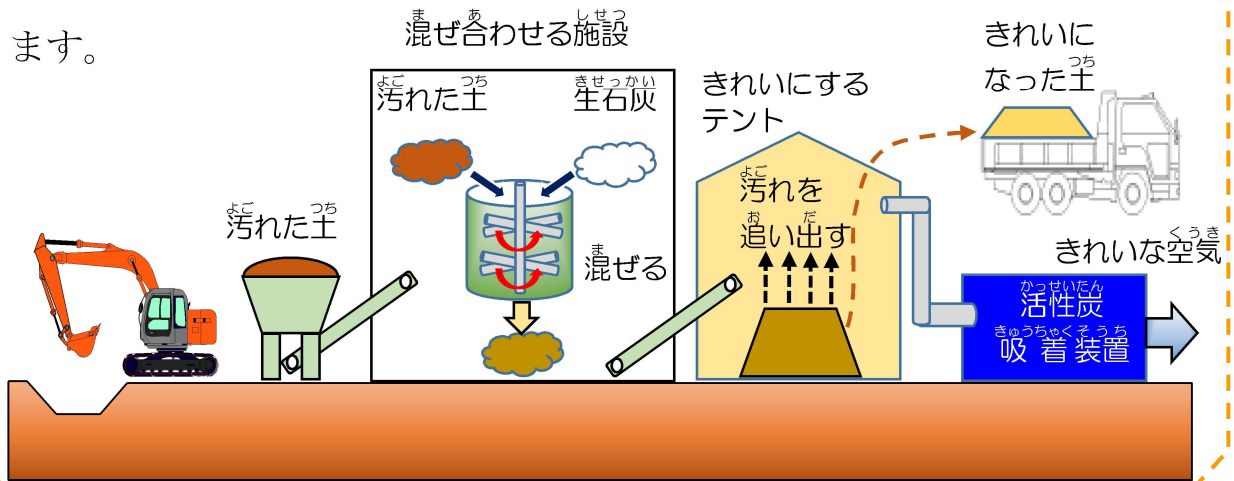
ごみを掘り出した後も、土や水に汚れが残っている場所がありました。この汚れには、工業製品の製造時に使用されることが多い、体に悪い影響のある化学薬品が含まれていました。



この汚れは土にしみこんだり、地下水の流れによって広がったりしました。そこで、次の方法で土や水の中の汚れをきれいになりました。

☆ 生石灰混合法

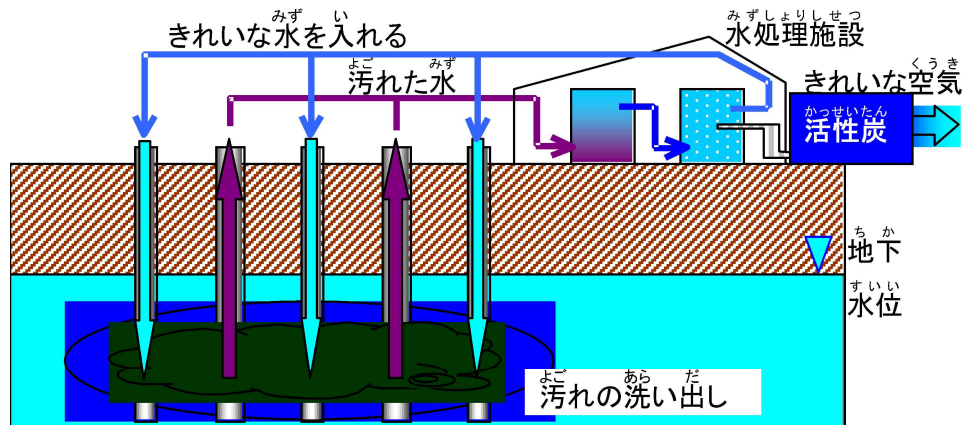
地下水位より上（上の図の黄色のところ）にある土の汚れをきれいにします。汚れた土を掘り出して、生石灰を混ぜて土の汚れを追い出します。



☆揚水ばっ気法

地下水の汚れをきれいにします。

きれいな水を汚れた土の中に入れて汚れを洗って、土や地下水をきれいにします。



5 ごみが捨てられた場所のこれからについて

県では、ごみが捨てられた場所を、20年以上かけて元のきれいな状態に戻しました。

ごみを片付けるために、250億円(25,000,000,000円)もの多くのお金がかかりました。これは、二戸市が市民のために使うお金(予算)の1年分(約166億円(令和6(2024)年度))よりも大きな金額です。

残念なことに、ごみを捨てた会社は、ごみを片付けるために必要なお金のすべてを払うことができません。そこで、県は、このごみを捨てた会社のほか、その会社にごみの処理を頼んだ会社(全部で12,000社ほど)に対しても法律を守っていたかどうか調べました。

これらの会社全部を調べて、法律を守っていなかった会社には、ごみが捨てられた場所からごみを片付けさせたり、片付けにかかるお金の一部を出してもらいましたが、かかったお金の4%（100分の4）しか回収できていません。残りは、国や県がみなさんのお父さんやお母さんから集めたお金（税金）が使われています。

きれいな状態にもどった場所は、会社が買い取って、地元のみなさんの意見をききながら、環境にやさしい事業を行うことを期待しています。

6 さいごに

自分勝手にごみを捨てると、空気や水が汚れて、みなさんが病気になったり、汚れた場所をきれいにするために、たくさんの時間やお金がかかってしまいます。

みなさんの住む大切な場所に、たくさんのごみが捨てられ、豊かな自然が傷つけられたことを大人になっても忘れないでください。せつかくきれいになった環境を守っていくため、みなさんもおみの処理に関心をもっていきましょう。



左の写真は、県がごみを片付け、土や水の中の汚れをきれいにした後の様子です。
（令和5（2023）年10月）